

「就職氷河期世代」の母親たちの抱える困難とニーズ

Difficulties and the needs narrated by mothers who were called the “Employment-Ice-Age” generation

仁科 薫
Kaori Nishina

大妻女子大学人間生活文化研究所
Institute of Human Culture Studies, Otsuma Women's University

キーワード：子育て支援政策，ケア，ニーズ
Key words：Family policy, Care, Needs

1. 研究目的

本研究では、社会調査に基づき、いわゆる就職氷河期世代（1971～1982年度生まれ）の女性たちが、子育てに関連してどのような困難に直面してきたのか、そして困難にどのように対処し、子育て支援政策にどのようなニーズを抱いてきたのか明らかにする。

研究を行うにあたり、就職氷河期世代に注目する理由は、就職氷河期世代の母親の場合、学卒期に就職が困難であったことが、その後の子育てと仕事の両立にも影響を及ぼしていると予想されるためである。

2. 研究実施内容

上記の研究目的を達成するために、平成 29 年度は①平成 27 年度及び 28 年度に、幅広い年齢層の母親たちを対象に実施したインタビュー調査で得られたデータの分析結果をさらに精緻化すること、②就職氷河期世代に関して書かれた文献を収集し、議論の傾向を把握すること、という二種類の作業を並行して行うことにした。

①で述べているインタビュー調査とは、子育てをめぐる困難と子育て支援に関するニーズについて 2015 年 8 月から 2016 年 9 月にかけて実施した調査で、インタビュー対象者は、首都圏在住の子どもの母親 7 名である。この調査で得られたデータの分析結果をさらに精緻化することで、以下の知見が得られた。

すなわち、今日、母親たちは「信頼できる子どもの預け先を確保する必要性」を満たすために、多大な身体的、精神的、時間的、経済的な負担を引き受けていること、その背景には公的保育の利

用が「狭き門」となっていることに加え、保育所・幼稚園のみではニーズを満たしきれない場合などに、子育て世帯とそれを取り巻く地域社会との関係が密であった時代と比べて、現在の母親たちにとって、（親族以外で）「信頼感」の持てる支援者を確保することが容易ではなくなったことがあるということが明らかになった。

②の作業を行うために、タイトルに「就職氷河期世代」もしくは「ロストジェネレーション」という語を含む書籍を収集し、分析を行った。

検討した書籍の中でも、特に重要な先行研究として、メアリー・C・ブリントンによる『失われた場を探して ロストジェネレーションの社会学』（池村千秋訳，NTT 出版，2008 年）を挙げることができる。この著書で、ブリントンは、高校卒業後に働く若者に焦点を合わせて、統計的なデータから彼らの苦境を論じ、インタビュー調査から彼らがどのように仕事を見つけたのか等明らかにしている。

平成 29 年度に収集した書籍の中では、特に就職氷河期世代の母親たちに主眼を置いた研究は見いだされなかった。その背景を考える際、雨宮処凛らによる『下流中年』（SB 新書，2016）から示唆を得た。中年となった就職氷河期世代について論じたこの書もまた、非正規雇用で働く独身者に主眼を置いている。そして、編集部による「はじめに」において、非正規雇用の中で「主婦のパート」は「就職氷河期などで、新卒時に思うような就職ができず、やむを得ず契約社員や派遣社員としてしのいできている人たち」とは区別されている。

こうした区別によって明らかとなる事象も少なくないと考えられるが、その反面、「主婦のパー

ト」を学卒時の就職困難と切り離して考えることにより、見逃されてきた問題もあるのではないか。例えば、就職氷河期で新卒時に正規雇用での就職ができなかったため、出産にともない就労を中断せざるを得ず、やむなく低賃金のパートで働きながら家事・育児のほとんどを担っている女性が内面に抱える剥奪感などは注目されない傾向にある。これまで行ってきた文献調査を活かして、平成 30 年度には、非正規雇用で就労する母親たちに関する学術論文や雑誌記事など、さらに検討する文献の種類を増やしたいと考えている。

3. まとめと今後の課題

研究実施内容の①で挙げた作業によって、今日子どもの預かりをめぐる母親たちの困難を論じるにあたっては、「信頼」がキーワードとなっていることが分かった。さらに、今日の母親たちのニーズに関する理解が深まったことで、彼女たちのニーズを子育て支援政策の専門家はどのように採り

上げてきたのかという点に関心が生じた。そこで、今後は学術雑誌に掲載されたものを中心として、子育て支援政策の専門家による言説を収集し、質的分析を行っていきたいと考えている。

研究実施内容の②で挙げた作業によって、今後収集するデータの分析に活かすことが期待できるコード（の候補）を抽出することができた。今後は、特に非正規雇用で働く就職氷河期世代の母親について論じた資料を求めて、さらなる資料の収集、分析作業を行っていきたい。また、非正規雇用で働く母親たちを支援するための政策に関して、どのような議論がなされてきたのか、資料を収集して明らかにしていきたい。

4. この助成による発表論文等

①学会発表

[1]仁科薫「子育て支援に関する母親たちのニーズとその背景」『日本家族社会学会』、京都大学、2017年9月9日